

生涯スポーツ とやま

vol. **75**
2023

富山福祉短大教授の小川耕平さんが講演



幼児期のスポーツとのいい出会いが 生涯にわたる運動習慣と健康につながる

令和4年度県生涯スポーツ協議会指導者研修会は11月17日、富山市の県総合体育センターで開かれ、富山福祉短期大学教授の小川耕平さんが「生涯スポーツを考える～スポーツとの出会いと実践～」と題して講演、同協議会の関係者ら約40人が子どものころの運動指導のあり方などについて理解を深めた。【講演の内容は2-4ページに掲載】

小川さんは学生時代にノルディックスキー距離の選手として活躍し、その後は県スキー連盟強化コーチを務めるなど、競技の世界で実績を残す一方、とやま健康パークで健康づくりとして運動をする利用者を指導し、現在は富山福祉短期大学幼児教育学科の教員としてスポーツ指導も含めた保育を担う人材の育成などにあたっています。「子どものころの間違った運動指導がスポーツ嫌いや燃え尽き症候群につながるので、生涯にわたってスポーツを楽しみ、体力向上や健康維持につながる意識を持てるように導いてほしい」と話しました。

令和4年度 県生涯スポーツ協議会指導者研修会

- ◆ 期 日 令和4年11月17日(木) 14:00～15:30
- ◆ 場 所 県総合体育センター
- ◆ 講 師 富山福祉短期大学教授 小川耕平さん
- ◆ 内 容 「生涯スポーツを考える～スポーツとの出会いと実践～」



私たちはこの世に生を受けてから亡くなるまで体を動かし続けます。スポーツは大事ですが、スポーツとの関わり方によって「スポーツ嫌い」になる子どもがいる現状も見えてきました。生涯スポーツに関わる皆さんの力は、これからますます大事になると思います。健康づくりのために国はプロジェクトを進め、数値目標を設定しています。数字にどんな意味があるかを知り、ご尽力いただければと思います。

2000年に大学を卒業した後、私が最初にスポーツに出会った船峯ジュニアクロスカントリースキークラブ(富山市大沢野地区)のコーチになりました。県スキー連盟の強化コーチをしながら競技も続けました。スキー人口が減ったので「猿倉ジュニアスポーツクラブ(猿倉 Jr.S.C)」と名称を変更し、2002年には監督に就任しました。当時、富山医科薬科大学医学部看護学科(現在の富山大学医学部看護学科)の研究員であり、県スキー連盟副会長だった田澤賢治教授の指導を受けていました。2003年には、富山県健康スポーツ財団(現富山健康づくり財団)に就職し、2011年からは富山福祉短大に勤務しています。2015年には卒業生と一緒にNPO法人笑顔スポーツ学園を設立、2018年からはあさひ保育園、2019あさひキッズにて委託を受け、園長を務めています。そして2020年にはすまいるキッズ塩谷道場の施設長もしており、スポーツや子どもたちとずっと関わってきたこととなります。

2000年とやま国体はリレーで準優勝

ノルディックスキー距離をやっていたことから長距離走が得意だと思われるかもしれませんが、走るの苦手でした。高校2年時に全国高校総体、大学4年時には国体に出場し、地元で声援を受けての大会も経験しました。2000年とやま国体では1走を務めました。「13位ぐらいで帰ってくるかな」と予想していましたが4位で2走に託すことができ、その後は日本トップクラスの3選手の頑張りで準優勝することができました。個人では到達できないステージへ行けたことにより、「スポーツって楽しい」と思いました。それから20年が経ち2020年に南砺市で国体が開催された時は、監督として優勝しました。選手が20年かけて銀メダルを金メダルにしてくれたのです。

2022年北京冬季五輪には2020年の国体優勝メンバーである山下陽暉と廣瀬峻の2選手が出場しました。日本代表の半分を富山勢が占めたのは嬉しいことです。山下は南砺市城端地区で育ち、廣瀬は猿倉 Jr.S.C の出身です。富山県はスキー競技をするのに恵まれた環境ではありませんが、海外で活躍する選手がいることで子どもたちに夢を与えてくれています。ノルディックスキー距離は苦しいけれど、野山を走り回って景色を楽しむなどの魅力もあります。強化だけではなく、普及も続けたいと思います。

猿倉 Jr.S.C は、様々なスポーツを体験できるクラブで、幼少期からガンガン鍛えるトレーニングをしているわけではありません。2022年の北京大会に五輪選手1人、パラリンピック選手2人(川除大輝、岩本美歌)を送り出すことができました。中でも川除は金メダルを獲得しました。猿倉 Jr.S.C の練習内容は「遊びの延長」です。でも本人たちの努力や気持ちがあればスポーツを楽しむことを目標に活

動するクラブでもトップアスリートが育っていくのだと、彼らがそれを証明してくれました。川除は周りの大人から「障害を言い訳にするな」と言われ、パラと健常者の競技の両方で頑張り、その背中を追って岩本がクラブに入ってきました。廣瀬と川除は同級生です。3人とも取材では「スキーが大好き」と語っています。歯を食いしばってトレーニングをしていますが、その前提には競技を楽しむ気持ちがあり、そのことがトップアスリートとしてスポーツを続けるモチベーションになっています。



廣瀬選手(右)と川除選手

スポーツとの関わり方はみる・する・ささえるなどがありますが、スポーツ文化が日本に根付いているかということ、そうではない気がします。スポーツの語源は19世紀から20世紀にかけて世界で一般化した言葉で由来はラテン語のdeportare(デポルターレ)と言われています。運び去る・運搬するという意味で、精神的な次元の移動、転換、元気の回復、遊び、楽しみといった要素を指します。スポーツ庁が定める「第二期スポーツ基本計画」においては「スポーツとは体を動かすという人間の根源的な欲求に応え、精神的充足をもたらすもの」とあります。

運動習慣のある人は男性33.4%、女性25.1%

スポーツ庁の2019年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」によると、運動・スポーツをする成人の割合は、週1日以上が53.6%、週3日以上は27%です。運動習慣のある人の割合は、男性で33.4%、女性は25.1%と低いのです。ちなみに定義されている運動習慣とは「30分程度の運動を週に2回、1年以上続けている」となります。高校生の時までは体育の授業によって必要な運動の機会が確保されています。しかし、卒業と同時に運動習慣がなくなってしまっています。スポーツ庁は「Sports in Life プロジェクト」を立ち上げて、一人ひとりが自然とスポーツを楽しみ、スポーツを通じて健康になったり、毎日を生き生きと過ごせるようになっていくことを後押ししています。東京オリンピックのレガシーとして、そういったことがなされるような方向性が打ち出されています。



さて、スポーツによって、どんなことが体に起こるかをアンケートで見た結果、充実度については、全くしない人が43%、1日だけする人が59%、1、2日する人が70%、3日以上の方は76%と、運動機会が多い人は充実度が高いことがわかりました。続いてストレスの観点から見ると、月に4回未満しか運動をしていない人と、4回以上運動している人を比べると、運動している方が、ストレスの度合いは低いのです。つまり仕事のストレスなどがあっても、運動しているか、していないかで、うつ傾向になるかどうかには違いがあるのです。また、スポーツ実践によって感じることの第1位は「ストレスが解消される」です。ただし、自分に合ったスポーツをやっていないと、苦痛に感じるとことも分かっています。

続いてダイエットとスポーツについて話します。成功したダイエットランキングの第1位は運動で45%です。食事制限という方法もありますが、筋力が落ちるので基礎代謝が減り、逆に太りやすい体になってしまいます。学力とスポーツについても考えてみましょう。数学・リーディングの平均点と運動能力の相関を見ると、体力テストで成績が良い方が学力は高いと分かります。これは運動能力＝学力ではなく、スポーツによって集中力が養われて勉強もできるようなのだと思います。

運動不足は子どもの「食べないと」「寝ない」原因に

健康づくりは栄養・運動・休養の3つの要素をバランスよく実践していくことが大切です。しかし、現在の子どもはいろいろな不調が出ていて「半健康状態」の子どもが多いといわれています。その理由を考えると、運動(活動)不足が要因だと考えられます。保護者から「うちの子が食べないと」とか「寝ない」という声を聞くことがあります。その理由は動いていないからおなかが減らないので食べないし、疲れていないから寝ないのだと思います。つまり栄養・運動・休養のバランスが崩れているのです。また、夜更かしによって起床時間が遅くなり、朝ごはんを食べずに学校に行く子どもも多くいて、脳を働かせるエネルギー(糖質)が不足した状態で1日をスタートさせるため、朝からボーっとして集中力もなくなり居眠りをしたり、体育の授業などでもケガをすることにつながります。すると「運動は、やらせないほうがいい」という考え方も出てきてしまうのです。

歩くことの効果は2000歩なら寝たきり予防、4000歩ではうつ病予防、5000歩は認知症予防、7500歩はがんの予防、8000歩は高血圧や糖尿病予防に効果があるとされています。ちなみに平均歩数は男性が6984歩、女性は6029歩で、現状では全く足りていません。「万歩計」という名称があるように1万歩以上歩くことが理想です。「健康日本21」という国の取り組みで定めた目標歩数は20歳から64歳までなら男性は9000歩、女性は8500歩、65歳

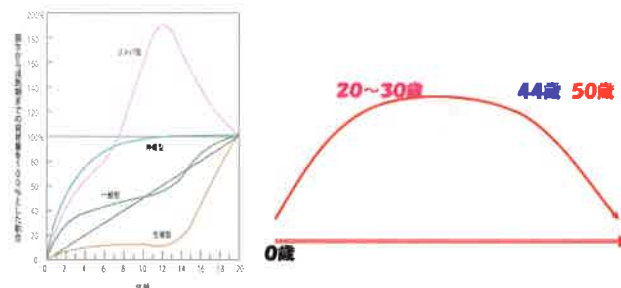
以上だと男性は7000歩、女性は6000歩です。国はかなり予算を費やして歩くように働きかけてきましたが、実際はあまり効果が上がっていないのが現状です。

健康課題としては、医療費は年々膨らんでいます。特定健診では、お腹周りを測ってメタボリックシンドロームに該当すると、積極的支援と動機付け支援として介入するようになりました。積極的支援の場合は6カ月間、原則、専門の施設で専門スタッフが対応し、改善されているかどうかをチェックします。検討段階ではペナルティーをつけてまでやろうという意見も出ました。不摂生をしている人だけが健康保険を多く使うのは不公平だという考え方です。1日1時間以上歩いている人と歩いていない人を4年間追跡した研究では、どのくらい医療費に違いがあるかを見ると、歩いている人の方が15%ほど使っている医療費が少ないと分かりました。歩けば絶対、医療費は下がるのです。1日1500歩、1日10分間程度体を動かすことで、1人当たり年間3万5000円の医療費を抑制できると言われます。ウォーキングが心、身体、社会に与える影響は大きいのです。

スポーツを「楽しく続けたい子」を置き去りにしない

皆さんは、いろいろなスポーツの現場を見ていらっしゃると思いますが、スポーツに取り組む人、体を動かす人は減ってきています。なぜでしょうか。人生にとってのスポーツとの出会いは幼稚園や保育所が始まりだと思いますが、この時はボール遊びや水遊びなど、「遊び」だったはずですが、それが、いつの間にか失われています。理由の一つは、勝利至上主義だと思います。例えば、海外との違いでは、こんなことが言えます。「あなたはスポーツをしていましたか?」と聞くと、日本人の場合は「全国大会に出たことがあるよ」などと成績を挙げます。でも、海外の人は「サッカーをして楽しかったよー」などと感想を言うことが多いです。日本も変わってきて、全日本柔道連盟が小学校の全国大会を廃止しました。「必死で頑張る子」もいていいのですが、「楽しく続けたい子」を置き去りにしないことが大切です。

発育とスポーツ成績の関係



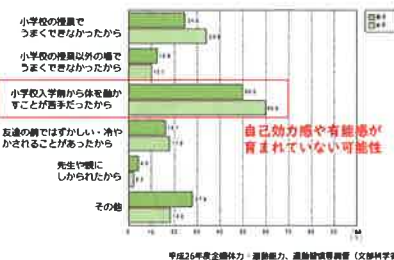
人間の発育とスポーツの関係を見た場合、縦軸が発育の度合い、横軸が年齢とすると、リンパ型、神経型、一般型、生殖型と4つの分野で発育のスピードが異なり、20歳でこの4つが全て成熟すると言われています。体力のピークは20歳から30歳ころで、男性は44歳ころ、女性が50歳ころから落ち始めると言われています。したがって高校卒業と同時に運動をやめる人が多くいますが、それは本当にもったいないことなのです。皆さん、肩回しをしてもらってもいいですか。右が前、左が後に回す動作をすると聞いてすぐにできる人とできない人がいます。この差は今の生活が影響しているというよりも神経系が発育する0歳から12歳ころまでに頭と体を使いながら活動することでリズム感や身体を操作する力が身に付き、後々も巧みに体を動かすことが容易にできるようになります。つまり、発育発達に応じてトレーニングを実施することが大切なのです。

今の子どもと昔の子どもの子ども体格や体力を比較すると、身長と体重などの体格は向上しています。体格が向上すると肥満でなければ、スポーツテストの成績は良くなるはずなのですが、体力を比べてみると男子も女子も走力や、投力は低下しています。このように体力の低下も問題ですが、それと同時に専門的な指導が幼少期から始まったことによって、運動実践の2極化が進んでいます。文部科学省が調べた結果でびっくりしたのは、専門的な指導員による運動指導の頻度が高い幼稚園の方が、運動能力が低いという結果が出ています。調べると、説明に時間をかけ過ぎて、園児の順番待ちの時間が長く、決められた動きしかしないことが原因だと言われています。

待っている時間を作らず全員が動き回る

例えば「しっぽ取り」というゲームがあります。腰に布やひもを付けて、取り合います。最後まで動き回るのは運動量が多いのですが、最初に「しっぽ」を取られた子の運動は止まってしまう。「どうしたらいいですか?」と聞かれたので「トカゲのしっぽ取りにしたらどうですか」と言いました。「しっぽ」を取られた子に「先生のところへしっぽを取りにおいで」と言うのです。すると新しいしっぽをつけて走り回ることができます。「勝敗が分からなくなる」との意見がありましたので、「取ったしっぽの数を競えばいい」と言いました。子どもが待っている時間を作らないことが大切です。体操系の運動もそうです。子どもが列を作って待つような状況にならない工夫をしてください。

運動(遊び・スポーツ)がきらいな理由
何がきっかけできらいになりましたか?



文部科学省の調査で「スポーツが嫌いな理由」を聞くと、根底には苦手意識があります。「体育の授業で居残り練習をさせられて嫌になった」などという声も聞かれます。小学校に入る以前から幼稚園や保育所で運動をさせられて、できないことによって自己効力感や有能感が育まれていないことが考えられます。また、スポーツクラブがスポーツ嫌いを生んでいる可能性もあります。サッカーをしたいと思ってチームに入っても、レギュラーの11人しか試合に出る機会がないチームもあります。スポーツ嫌いを作らないために地域が一丸になって、子どもたちがスポーツに取り組む環境を変えていく必要があります。

運動していない子どもの特性について調べてみると、運動していない子どもでも3人に2人は「運動やスポーツが好き」と言います。また、2人に1人は「スポーツをしてみたい」と。しかし、その環境がないのが現状で、この子たちを放っておいてはいけません。1日60分以上体を動かすことが望ましいとされ、1週間に420分以上体を動かしている子については90%近く「スポーツが好き」と言い、スポーツテストの結果は1985年とほぼ変わりません。1週間に60分未満と、ほとんど体を動かさない子どもでも66%の子は「スポーツが好き」と答えています。環境を整えれば、子どもたちはもっとスポーツに親しむはず。必ずしも運動でなく、お手伝いでもいいのです。

小学生の全国大会出場は半数が4～6月生まれ

子どもに関わる大人は子どもの発育・発達する時期やバ

ターンを知っておく必要があると先に伝えました。加えて発育・発達には個人差があることも知っていただきたいと思います。日本陸上競技連盟が小学生交流大会の出場者の生まれ月の分布を2008年から2011年までの4年間にわたって調べました。すると、4月から6月生まれの子どもが約半数でした。差は年齢とともに縮まり、五輪・世界選手権では均等になっています。

皆さんは運動が好きで続けてこられたと思いますが、そうでない方がスポーツを始め、やり続けてもらわねばなりません。行動変容のステージを知った上で指導に当たっていただけたらと思うのです。例えば「無関心期」の方に対しては「やろう、やろう」と言うと負担が大きくなります。まず環境を整え、ウォーキングシューズを買うとか、目標を書いて貼るとか……。モニタリングし、具体的かつ客観的な気づきを得られるようにすることが大切です。また、せっかく歩き始めたところで降雪期に入ることもあるので、運動習慣の中断を防ぐ取り組みも必要だと思います。何よりスポーツの効果を感じることが大切です。身体的影響(筋力増強、健康、増進、ダイエット)、精神的影響(ストレス発散、気分転換)、社会的影響(生活の質の向上)などです。こういったことを考えながらやっていただくと継続することができると思います。

行動変容のステージ

ステージ	6か月以内に運動する意欲がない	意欲より負担を感じている場合が多い
関心期	6か月以内に運動する意欲はあるが、現在は運動していない	運動実践の障害はなにか考えられている
準備期	望ましい水準ではないが、自分なりに(不定期)運動している	達成可能な行動目標を設定する
実行期	目標への意欲を得る望ましい水準で運動しているが、始めてからまだ6か月以内	運動中状況での対応策を考えたり、仲間を作っておくことが重要
維持期	望ましい水準での運動を、6か月以上にわたって継続している	生活上の変化に注意するより高いレベルの目標を設定する

普段の生活の中から体を動かすようにしていくことが大切です。18歳から64歳の方は、今の生活にプラス10分、そして1日トータルで60分体を動かしましょう。65歳以上はじっとしないで1日40分、できればスポーツや筋トレを行ってください。そうすることで死亡のリスクを2.8%、さまざまな病気のリスクは、生活習慣病は3.6%、がんなら3.2%、認知症は8.8%低下させると言われています。1000歩から1500歩多く歩くことを1年間継続すると1.5キロから2キロの減量の効果が期待できます。運動することのメリットを把握し、継続すること。そして楽しく体を動かすことを伝えて言ってくださればと思います。



【略歴】

おがわ・こうへい 富山市出身。雄山高校、国士舘大学卒、富山大学大学院修了。ノルディックスキー距離の選手として1994年のとやまインターハイや2000年とやま国体に出場。富山健康づくり財団職員などを経て現在は富山福祉短期大学幼児教育学科教授。NPO法人笑顔スポーツ学園理事長、県スキー連盟理事、県バスケットボール協会評議員、猿倉ジュニアスポーツクラブ監督、あさひ保育園園長、あさひキッズ園長、すまいるキッズ塩谷道場施設長。

令和5年度富山県スポーツフェスタ第32回富山県民スポーツ・レクリエーション祭のお知らせ

交流部門・体験部門

◆中心会期 令和5年5月27日(土)・28日(日)

No	種目名	部門		期 日	会場名	市町村
		交流	体験			
1	グラウンド・ゴルフ	○		5月14日	砺波総合運動公園多目的広場	砺波市
2	ゲートボール	○		5月28日	富山市山室二区公園ゲートボール場	富山市
3	壮年サッカー	○		5月28日	富山南総合運動公園サッカー場	富山市
4	ソフトバレーボール	○		5月21日	富山県総合体育センター	富山市
5	女子ソフトボール	○		6月25日	滑川市立西部小学校グラウンド	滑川市
6	ラージボール卓球	○		5月21日	福光体育館	南砺市
7	ターゲット・バードゴルフ	○		5月28日	南砺市城南ターゲット・バードゴルフ場	南砺市
8	男女混合綱引	○		5月27日	城端西部体育館	南砺市
9	年齢別テニス	○		5月27日	岩瀬スポーツ公園テニスコート	富山市
10	年齢別ソフトテニス	○		5月28日	岩瀬スポーツ公園テニスコート	富山市
11	バウンドテニス	○		5月21日	滑川市総合体育センター	滑川市
12	壮年ボウリング	○		4月23日	高岡スカイボウル	氷見市
13	マスターズ陸上競技	○		4月30日	高岡市宮城光寺陸上競技場	高岡市
14	フォークダンス	○		5月28日	大島農村環境改善センター	射水市
15	エアロビック	○		5月28日	富山県西部体育センター中アリーナ	砺波市
16	トランポリン	○		6月11日	富山県総合体育センター	富山市
17	サイクリング	○		5月14日	砺波市内周遊(砺波総合運動公園発着)	砺波市
18	ママさんバレーボール	○		5月14日	富山県総合体育センター	富山市
19	ベタンク	○		5月21日	砺波市中村グラウンド	砺波市
20	ウォークラリー	○		5月28日	道の駅井波(集合)	南砺市
21	キャンプ		○	5月28日	県民公園太閤山ランド「いきいき広場」	射水市
22	ビーチボール	○		5月21日	黒部市総合体育センター	黒部市
23	ホステリング	○		5月27日	増山城跡	砺波市
24	3B体操	○		6月6日	富山市総合体育館	富山市
25	フレッシュテニス	○		5月21日	高岡市竹平記念体育館	高岡市
26	パークゴルフ	○		5月21日	滑川市東福寺野自然公園パークゴルフ場	滑川市
27	ダンススポーツ	○		5月28日	富山市総合体育館	富山市
28	ドッジボール	○		5月7日	県民公園太閤山ランド「ふるさとパレス」	射水市
29	エンジョイテニス	○		5月13日	岩瀬スポーツ公園テニスコート	富山市
30	武術太極拳	○		5月28日	庄川体育センター	砺波市
31	ビリヤード	○		5月21日	フィレンツェネオ黒瀬店	富山市
32	ウォーキング		○	10月7日	庄川水記念公園周辺	砺波市
33	キンボールスポーツ	○		5月28日	富山市婦中体育館	富山市
34	ユニカール	○		5月28日	串田公民館	射水市
35	スポーツチャンバラ	○		5月14日	新湊アイシン軽金属スポーツセンター剣道場	射水市
36	カローリング	○		5月7日	富山県西部体育センター	砺波市
37	フラダンス		○	6月4日	イオンモールとなみ「チェリーリップコート」	砺波市
38	ノルディック・ウォーク		○	5月28日	富岩運河環水公園	富山市
39	スポーツウェルネス吹矢		○	7月30日	富山城址公園	富山市

令和5年2月22日現在の予定です。

ウェブ・エージェント
Webagent

パソコン販売
ホームページ作成
サポートまで
ワンストップで対応致します。

〒939-8055

富山市下堀88-5 TEL:076-494-2285 FAX:076-494-2286

“オフィスを科学し創造する”



株式会社 瀬戸

office

社 〒930-0026 富山市八人町9-11 TEL 076-441-3818 FAX 076-441-8434

本 部 〒930-0026 富山市八人町9-11 4F TEL 076-441-3111 FAX 076-439-5300

shop

大 泉 店 〒939-8087 富山市大泉町11-5-9 TEL 076-420-4555 FAX 076-420-6444

オ フ コ セ ト 〒930-0856 富山市牛島町5-5 TEL 076-444-4668 FAX 076-444-4666

7階-11ビル1F

営業品目

IT関連用品、情報機器、デジタル複合機、デジタル印刷機、CAD、タイムレコーダー、バーキングシステム、セキュリティ関連、耐火断熱、施設、設備用品、文具、事務用品、図書館家具用品、旅行用機器、教育機器、エコロジー関連

http://www.kk-seto.com

功績をたたえる 表彰に輝いた方々・団体

文部科学省生涯スポーツ功労表彰者



富山県ビーチボール協会
理事長 **安田 美和子** 氏

今回の表彰は、偏に、ビーチボールを通じた皆様との出会いのお陰だと思っております。長年にわたりご支援くださった皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



富山県グレードテニス連盟
理事長 **広野 幹夫** 氏

沢山の皆様のお世話をいただいたこそこの受賞です。これからも生涯スポーツ発展の為に役立てる様、精進していきたいと思います。

県スポーツ部門功労表彰者



富山県ママさんバレーボール連盟
副会長 **黒井 由紀子** 氏

この度の受賞にあたり、活動を共にしながら支えあった仲間感謝をいたします。今後もバレーボールの普及に努めていきたいと思っております。



富山県武術太極拳連盟
副会長 **澤井 武雄** 氏

この度の受賞を励みとして、今後とも太極拳普及活動に邁進し、富山県スポーツ界の発展のため微力を捧げたいと存じます。

令和4年度 富山県生涯スポーツ協議会加盟団体

No	加盟団体名	No	加盟団体名	No	加盟団体名
1	レクリエーション協会	15	日本3B体操協会富山県支部	29	武術太極拳連盟
2	サイクリング協会	16	フレッシュテニス協会	30	エアロビック連盟
3	ユースホステル協会	17	パークゴルフ協会連合会	31	ビリヤード協会
4	フォークダンス連盟	18	ダンススポーツ連盟	32	ウォーキング協会
5	ゲートボール協会	19	シニアサッカー連盟	33	キンボールスポーツ連盟
6	綱引連盟	20	ソフトボール協会(レディース・エルダー委員会)	34	ユニカール協会
7	ママさんバレーボール連盟	21	卓球協会	35	スポーツチャンバラ協会
8	バウンドテニス協会	22	グレードテニス連盟	36	カローリング協会
9	キャンプ協会	23	ソフトテニス連盟	37	富山アロハ協会
10	ベタンク連盟	24	ボウリング連盟	38	ターゲット・バードゴルフ連盟
11	ターゲット・バードゴルフ協会	25	富山マスターズ陸上競技連盟	39	ノルディック・ウォーク連盟
12	ソフトバレーボール連盟	26	ドッジボール協会	40	スポーツウエルネス吹矢協会
13	ビーチボール協会	27	日本女子テニス連盟富山県支部		
14	グラウンド・ゴルフ協会	28	体操協会トランポリン委員会		

興味のある方、やってみたい方は→協議会事務局まで
☎076(431)2088

編集後記

各加盟団体とも、新型コロナの感染症によって苦渋の選択を強いられてきた3年間だったと思います。マスクの着用について、3月13日から屋内・屋外を問わず個人の判断に委ねることとなりました。5月8日には、新型コロナの感染症法上の分類を季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に引き下げると決まりました。

第32回富山県民スポーツ・レクリエーション祭において、一度に以前のように解禁とはいかないとは思いますが、感染症対策を併用しながらの大会運営の励みとなる紙面づくりに広報委員一同頑張りますので、明るい報告が頂けるようお願いいたします。

広報委員 日下部 宏昌

あなたの思い伝えたい。

NAKATANI PRINTING
URL <http://www.nakatani-p.co.jp>

株式会社 なかたに印刷

〒939-2741 富山市婦中町中名1554-23 TEL076-465-2341 FAX076-465-2340 <http://www.nakatani-p.co.jp>

日本印刷個人情報保護体別認定 JPS